

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句  
令和二年九月度 入選句（投稿総数千三百二十六句・一般投句数五百二十八句）

特選

朝顔や文字に声ある母の文

東京都世田谷区 関戸 信治

朝顔の花の前で母からの手紙を読んでいる。懐かしい文字や言葉使いに、母の声が聞こえて来るようだ。

朝顔は母の象徴にもなっている。朝早くそっと静かに咲く花。派手でなく落ち着いた佇まい。母の里も朝顔が咲いているのであろう。

また一葉落ちて拡げる茜空

養老郡養老町 田中 紫香

一葉落つは桐一葉の傍題。桐は一葉が大きく、一葉だけがはらりと散る。秋の到来を感じさせる季語。

桐の木の下から茜空を見上げている。一葉が散り、しばらくしてまた一葉が散った。ゆったりとした時の流れと、茜空の色と広さが伝わる。

背筋伸び竹刀振りたり生身魂

大垣市 高橋 柳邦

生身魂は、お盆の時期に生きている年長者に祝物を贈り、ご馳走をする風習や、その年長者のことを言う。

矍鑠とした人物の姿が、動きを伴って見えてくる。健康と長寿を言祝ぎ、尊敬の念が表現されている。

秀逸

人々の影やはらかき良夜かな

愛知県名古屋市 舘野 茂子

節くれた指は勲章生身魂

大垣市 宮上 美濃留

行灯が道標なり地藏盆

大垣市 山田 千歌子

段なしてはしる湧き水山葵

大垣市 三輪 千芽

一口の水の重さや敗戦日

大垣市 末守 節子

残照の小さき栈橋終戦日

大垣市 小林 研

幼な子も真似る手さばき盆踊り

大垣市 早苦 千恵子

涼風にうなじを上げて応へけり

愛知県額田郡 平松 京師

竿先にひとみ取られし根釣人

不破郡垂井町 西垣 和志

赤蜻蛉離れぬ煉瓦遺構かな

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

入選

たて横に涼しき姿富士すわる	本巢市	林 吾亦紅
奉灯に纏はり付きぬ灯取虫	大垣市	伊藤 英司
迎え火や日暮れを待てず淡く揺れ	大垣市	吉田 てるみ
どの道も知り合いばかり草の花	大垣市	西脇 克明
何事も笑みで治むる生身魂	大垣市	平野 ヒサエ
化野に千のともし灯こぼれ萩	岐阜市	田中 淳子
瓢箪のくびれもよろし母の畑	大垣市	清水 迪子
ラジオ聞く子供の正座終戦日	京都府京都市	八田 弥須子
落し水六年生の赤米田	奈良県奈良市	やまとなでしこ
稲の花ゆるり地球儀廻しをり	大垣市	傍島 隆

入選

佛間へと通す新涼遣影笑む	不破郡垂井町	児玉 昌巳
岩礁をあをあを照らす月今宵	安八郡輪之内町	野村 照子
農雑誌ページ繰る夫夜長の灯	大垣市	田中 雅子
油照の影一つ無き古戦場	大垣市	森川 きよ子
山裾の日はうすうすと藤袴	大垣市	中山 あや子
おしろいや古墳の主は遊女かも	大垣市	村田 通夫
穏やかに暮れゆく山河終戦日	大垣市	新町 恵子
おはようにおはよう返す敬老日		高木 歌佐
唐がらし夕日が怒っているやうな	宮城県名取市	松本 裕子
友来る塩加減よき月見豆	安八郡安八町	安八 花代

選者吟

ここまでと葉をはさむ夜長かな

武 直